

2015. 4. 1

BUNKA GAKUEN COSTUME MUSEUM NEWS

編集・発行 文化学園服飾博物館

- 文化学園服飾博物館の収蔵品…………… 1
- 2014年度の活動報告…………… 2
- 服飾博物館トピックス…………… 3
- 2015年度展示のご案内…………… 4

文化学園服飾博物館の収蔵品

博物館・美術館の中には、他の施設から展示品のすべて、または一部を借りて展示を構成している館が多数あります。しかし服飾博物館は収蔵品だけで展覧会を構成することがほとんどで、これは当館の基本方針となっています。このため、当館では膨大な数の日本と世界各地の服飾資料を所蔵し、保管しなければなりません。収蔵品はどのように保管されているのか、またどのように活用されているのかをご紹介します。



★ どんなところで保管されている？

服飾博物館の資料は専用の収蔵庫に保管されています。収蔵庫は温度・湿度を常に一定に管理し、これを保つためにも資料の出入庫時以外には立ち入りが制限されます。収蔵品は着物・ドレス・靴など、素材・大きさ・形もそれぞれ違うため、箱やタンスなど、それらにあった収納方法によって保管されています。また、収蔵品はすべてデータベース化されており、出入庫の状況や過去の出品履歴などがすぐに分かるようになっています。



ドレスや民族衣装用の桐タンス。ハンガーに吊って収納したり、寝かせて収納する。



人が一人寝ているのと同じ状態です。



デキスタイル専用の桐タンス。



日本の着物専用の桐タンス。



ヨーロッパの靴の収納。



中性紙の箱を使った収納。箱の外側からも中に入っているものが分かるよう表示する。

★ 展覧会以外でも活用されている？

服飾資料を専門に所蔵・展示する博物館・美術館は国内に数少なく、当館では年4回の企画展ですべての展示品を入れ替え、日本・ヨーロッパ・アジアなど、さまざまな地域の服飾資料を広く一般に公開しています。また、日本のファッション教育の中心的存在である学校法人文化学園の付属機関として教育的な役割も担っており、所蔵資料は国内外の研究者による専門的な調査や、本学園の学生の授業などにも活用されています。その他、出版社やテレビ局などからの画像使用の要請を受け、一般書籍や雑誌、テレビ番組製作のために所蔵品の画像を提供、協力することもあります*。

* 資料の保護、所有権の保持のため、専門調査・特別観覧・画像貸出等は当館規定に基づき審査の上行います。



研究者による調査のための特別観覧。

★ 服飾博物館で人気の収蔵品？ この10年間で最も多く画像の貸出要請があった所蔵品は次の3点です。

BEST 1



昭憲皇太后の大礼服 … 15件

美しい色合い、象徴的な菊の文様から、明治宮廷や昭憲皇太后に関する書籍、皇室の特集番組などに取り上げられます。3点しか現存しない昭憲皇太后の大礼服のうちの1点です。

『ドレス・オペレーションの「こころ」』 大沼 淳著

BEST 2

CHECK!!
展示予定あり!

皇女和宮の帷子と所用品 … 14件

時代に翻弄されたドラマティックな人生から取り上げられることの多い皇女和宮。大河ドラマの舞台が幕末期の年には関連書籍も多く出版され、目にする機会も増えます。

BEST 3



小袖（更紗切継、杜若文様）… 12件

江戸時代の豪商、三井家に旧蔵された小袖で、肩と裾、襟に舶載の更紗を切り継いだもの。更紗の関連書籍などでは取り上げられることの多い名品です。

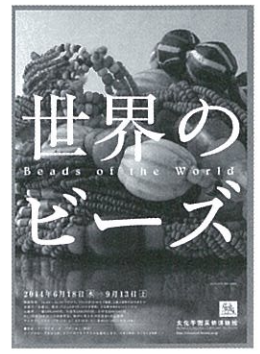
ヨーロッパ・モード
2月7日～5月24日

春の恒例の企画として18世紀の華やかな宮廷衣装から多様なスタイルが打ち出された20世紀末まで、約250年におけるヨーロッパの女性モードに焦点を当て、子供や男性の装いも交えながら、時代背景とともに紹介しました。また今回は展示年代を1990年代まで広げ、記憶に新しい近年の流行やデザイナーの創造性にあふれる作品に触れることで、現代までの流行の移り変わりを実感できる内容にしました。



世界のビーズ
6月18日～9月13日

本展では、交易品として珍重されたガラス・ビーズ「トンボ玉」、ヨーロッパのきらびやかなビーズ刺繍のドレス、象徴的な意味を持つアジアやアフリカの各民族の衣服や装身具など、多種多様な約40か国、200点あまりのビーズを地域別に紹介しました。世界各地のビーズを一堂に紹介することで地域による特徴や違い、地域を越えた共通性、また交易による影響などが浮かび上がりました。



**雛人形・雛道具に映しだされた
雅の世界**
10月10日～11月22日

文化学園大学創立50周年を記念して開催された本展では、明治時代の雛人形・雛道具と、それらの元となる装束や蒔絵を施した調度類を合わせて展示しました。また、文化学園大学の前身である文化女子短期大学の黎明期に、尾張徳川家第19代当主の徳川義親氏が学長を務められたことから、徳川美術館にご協力を賜り、徳川家の雛飾りを出品いただきました。展覧会を通じて日本人のミニチュアに対する美意識と、それらを作り出す精巧な技術を感じていただけたのではないかと思います。



時代と生きる
—日本伝統染織技術の継承と発展—
12月17日～'15年2月14日

日本の伝統服飾である着物や帯に関わる染織技法は世界に類を見ないほど多岐にわたっています。本展では、江戸時代後期から現代までの着物や帯を展覧しながら、それらの中に生きる伝統的な職人技と工業技術革新の歩みを紹介しました。展示の中で、製作の道具類、製作過程の映像などを多用したことで、職人の根気強い仕事ぶりや技術の高さ、機械化によるスピードや効率などが来館者にもよく伝わり、世界にも認められる「日本の技術力」を再認識していただけたことと思います。



他館で開催された展覧会への協力 * () 内は、協力の内容

- 「江戸の異国万華鏡 — 更紗・びいどろ・阿蘭陀」… (所蔵資料1点の貸出)
3月15日～6月8日 主催=MIHO MUSEUM、京都新聞 会場=MIHO MUSEUM
- 「明治の皇后 — 明治天皇と歩まれた昭憲皇太后」… (所蔵資料1点の貸出)
3月29日～4月16日 主催・会場 = 明治神宮文化館 宝物展示室
- 「江戸へようこそ！ 浮世絵に描かれた子どもたち」… (所蔵資料8点の貸出)
7月8日～8月31日 主催=千葉市美術館、東京新聞 会場=千葉市美術館
- 「モナコ ロイヤルウェディング」… (ドレスの着せつけ協力)
7月23日～'15年3月8日 (4会場巡回)
主催=NHKプロモーション他
会場=日本橋三越本店、JR京都伊勢丹 美術館「えき」KYOTO、福岡三越、松坂屋美術館
- 「旅セヨ乙女」… (所蔵資料5点の貸出)
10月4日～11月16日 主催=豊橋市二川宿本陣資料館、豊橋市教育委員会 会場=豊橋市二川宿本陣資料館
- 「白絵 — 祈りと寿ぎのかたち —」… (所蔵資料1点の貸出)
10月11日～11月16日 主催=神奈川県立歴史博物館、文化庁 会場=神奈川県立歴史博物館
- 「更紗の時代」… (所蔵資料9点の貸出)
10月11日～11月24日 主催=福岡市美術館、朝日新聞社、九州朝日放送 会場=福岡市美術館
- 「うた・ものがたりのデザイン — 日本工芸にみる《優雅》の伝統 —」… (所蔵資料5点の貸出)
10月28日～12月7日 主催=大阪市立美術館、毎日新聞社 会場=大阪市立美術館



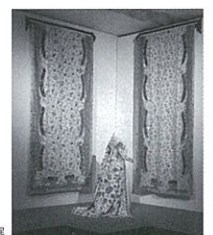
「江戸の異国万華鏡 — 更紗・びいどろ・阿蘭陀」展
撮影：水野敬久



「モナコ ロイヤルウェディング」展



「旅セヨ乙女」展



「更紗の時代」展

東京文化財研究所と提携しています。

文化学園服飾博物館は、昨年度より独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所と提携を結び、染織に関する調査や研究を共同で行っていくことになりました。

染織品の調査については、東京文化財研究所の持つ高性能の機材や設備を使い当館の所蔵資料を調査・分析することで、染料の成分や製作方法などの詳細が分かるようになり、製作地や製作年代の特定、染織品の保存や古い技法の復原などにつながります。また、東京文化財研究所の行う染織産業に関する現地調査などにも同行して情報を共有し、展示施設を有する当館においてそれらを広く紹介することで、染織産業に対する一般の方々の理解や関心が深まることが期待できます。昨年12月に開催された展覧会「時代と生きる - 日本伝統染織技術の継承と発展 -」では、東京文化財研究所が現地調査を行った映像なども使い、伝統染織技術を分かりやすく伝えることができました。またこの展覧会の会期中には、東京文化財研究所との共催で研究会「染織技術をささえる人と道具」を開催しました。この研究会では、学識者、着物の製作に携わる職人などがパネリストとして参加し、伝統的な染織技術を継承する上で抱えるさまざまな問題を議論し、今後の課題への認識を共有することができました。



京都での調査の様子



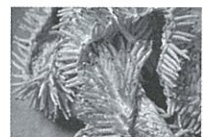
研究会「染織技術をささえる人と道具」

国内の染織関連工場の取材を行いました。

服飾博物館では引き続き国内の染織関連の工場やもの作りの現場の取材を行い、あわせて染織品製作のための道具、製品になる前の製作途中品などの収集も進めています。昨年度は、京都、名古屋、博多、秩父、桐生など日本の伝統染織の工房や工場、また国内のデニム生産において高いシェアを有する倉敷市（児島地域）と福山市のデニム関連工場を取材しました。昨年度は、「時代と生きる - 日本伝統染織技術の継承と発展 -」展においてその成果を紹介することができました。なおデニム関連工場の取材成果は、2015年3月からの展覧会「ヨーロッパ・モード」において一部紹介しました。近年、各産業における「日本の技術力」が高く評価され、テレビ番組や書籍などでも工場やもの作りの現場がしばしば取り上げられます。こうした中で産業観光に力を入れる自治体や企業もあり、「日本のものづくり」が国内外から注目を集める一方、産業として継続が危ぶまれる状況も多く見られます。服飾博物館でも数年前から染織関連の工場の取材を積極的に行い、博物館の収蔵資料と関連づけてそれらを伝える機会を増やしていくことで、日本の技術力の保持や染織産業の活性化に役立てよう努めています。取材を行う際は来館者と同じ目線に立つことを心がけ、職人さんや関係者に質問をしたり、現状を伺ったりしながら映像を撮っていきます。これらの聞き取ったことや取材映像を分かりやすくまとめ、来館者の皆さんに伝わるように取り組んでいきたいと思ひます。



秩父銘仙の糸染めの工程。職人に教わりながら、実際に体験してみよう。



普段目にすることのない染める前の絞り染の反物。



児島のデニム加工工場の取材

オリンピックにまつわる衣服を探しています！

2020年のオリンピック開催が東京に決まり、一昨年は日本中が沸き返りました。当館の母体である学校法人文化学園は、東京体育館や国立代々木競技場などの競技施設に近いこともあり、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と連携協定を結んでいます。服飾博物館では、東京オリンピック開催にあわせ、2020年前後にオリンピックに関連する衣服（役員の制服や競技服など）の展示を予定しています*1。このため、オリンピックに関連する衣服（帽子、旗などの周辺小物、冬期大会のものも含む）を探しています*2。お問い合わせは服飾博物館までお願いいたします。

*1 予定は変更される場合があります。 *2 お引受けに際してはご寄贈であることを基本としています。



大会役員の制服 1964年
文化学園服飾博物館所蔵

「ヨーロッパ・モード」改訂版を刊行予定です。

ヨーロッパのドレスの流行がオール・カラーでコンパクトにまとまり分かりやすいと評判の『ヨーロッパ・モード』の改訂版を刊行予定です。改訂版は、全44ページとこれまでより4ページ増え、服飾博物館の所蔵品の中から18世紀～20世紀末のドレスの流行を紹介していきます。

*3 改訂版は、ページ数の増加と消費税増税によりこれまでの価格を見直す予定です。ご了承下さい。



『ヨーロッパ・モード』

～5月13日 *4/5は開館
4/17、5/1 は19:00まで開館
ヨーロッパ・モード

宮廷が優雅な流行を生み出した18世紀のロココ時代から、若者や大衆が多様なスタイルを流行させるとともに、デザイナーの哲学や感性が作品に強く表れる20世紀末まで、約250年のヨーロッパの女性モードに焦点を当て、その社会背景とともに紹介します。また、特集として今回は「デニム」を取り上げます。19世紀、アメリカにおいて労働者階級の丈夫な作業着であったデニムが、時代を経て男女ともにファッションとして定着し、デザイナーたちがデニムの流行をリードするようになった現在までを振り返ります。



6月10日～8月31日 *6/14、8/2、8/23 は開館 夏期休館=8/9～16
6/19、7/3 は19:00まで開館
衣服が語る戦争

今年は第二次世界大戦が終結して70年です。戦争という特殊な状況下における衣服からは、戦意高揚やナショナリズムを意識した文様、国民の統率を図り贅沢を制約するための標準服など、大衆が戦争にのみ込まれていくさまが見て取れます。展示では、明治時代から昭和戦前期を中心とした戦時下の人々の着物や洋装、また同時期のヨーロッパで流行したミリタリー風スーツなど、衣服が語る戦争の影響を、当時の雑誌なども紹介しながら読み取っていきます。また、特集として具足や陣羽織など、江戸時代の武士の装いも紹介します。



9月25日～11月25日 *11/1、3 は開館
10/16、11/13 は19:00まで開館
エピソード ～服が語るひと・こと・とき～

服は着る人のアイデンティティーや社会的立場を表現するもののひとつです。どうしてその服を着たのか、どのような状況で着たのか、その服を着ることで何を伝えたのかなど、着る人の人生や生きた時代背景と密接に結びついているものです。本展では、当館所有の中から着用者、所有者、使用の機会など由来の分かっているものを選び、江戸時代後期の武士から、幕末、明治～昭和戦前期にかけての皇族、政治家、実業家、文化人など、衣服をとおして着用者の人となりや服が着られた時代の社会的背景を紐解きます。



12月17日～2016年 2月17日 *年末年始休館=12/29～1/4
1/15、2/12 は19:00まで開館
魔除け ～身にまとう祈るころ～

服は暑い、寒いといった環境と人との調整を果たすだけでなく、人と外界との境目にあって、人を目に見えない魔的なものから守る役割も求められています。科学的な知識がない時代には、病気や死、狂乱などは目には見えない魔的なものが人の体に侵入して引き起こすと信じられていました。そこで人々は魔的なものを追い払う力や、神聖さを保つ力があるとされる文様や色を衣服に表し、また、アクセサリを身に付け結界を築いてきました。本展では世界各地の民族衣装や日本の服飾に見る魔除けの役割を見ていきます。



* 上記の予定は都合により変更されることがあります。

利用案内

- ◆ 開館時間 10:00～16:30 (各展示会期中2回、19:00まで開館 入館は閉館の30分前まで)
- ◆ 休館日 日曜日、祝日、夏期・年末年始、展示替の期間
- ◆ 入館料 一般 500円・大高生 300円・小中生 200円
*20名以上の団体は100円引、障がい者とその付添者1名は無料
- ◆ 交通 JR/京王線/小田急線 新宿駅(南口)より徒歩7分
都営地下鉄 新宿線/大江戸線 新宿駅(新都心口)より徒歩4分



文化学園服飾博物館

〒151-8529 東京都渋谷区代々木 3-22-7
TEL. 03-3299-2387
<http://museum.bunka.ac.jp>

学校法人 文化学園
文化学園大学/文化ファッション大学院大学/文化服装学院/
文化外国語専門学校/文化出版局/文化学園服飾博物館